

2025 年 3 月 26 日作成

第 1 版

2022 年 1 月 1 日～2025 年 4 月 31 日の間に庄原赤十字病院に誤嚥性肺炎治療で入院された方へ

—「誤嚥性肺炎患者における普通食継続因子の検討について」に関する研究へのご協力の
お願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について庄原赤十字病院倫理委員会の承認を受け、庄原赤十字病院長の許可を受けて実施するものです。

研究責任者 庄原赤十字病院 医療技術部 栄養課 管理栄養士 重政 光彰

研究分担者 庄原赤十字病院 医局 第一内科部長 服部 宜裕

庄原赤十字病院 看護部 師長 竹岡 雅美

庄原赤十字病院 医療技術部 作業療法技術課 言語聴覚療士 矢富 嘉昭

研究指導者 県立広島大学 総合学術研究科 人間文化学専攻 教授 栢下 淳

1. 研究の概要

栄養障害と摂食嚥下障害は、誤嚥性肺炎の発症及び重症化の危険因子であることが報告されており、誤嚥性肺炎発症も低栄養や摂食嚥下機能低下の原因となり相互に関連しています。嚥下機能の改善や食形態との関係については、普通食を摂取するほうが嚥下調整食を摂取するより、栄養状態や摂取栄養量が良好であるという報告があります。先行研究では、非経口摂取や嚥下調整食から経口摂取への改善因子を調査した報告が多く、誤嚥性肺炎に対象を絞って普通食継続への影響因子に関する報告は見受けられません。そこで、本研究では、入院前に普通食を維持できていた患者が入院中食形態の変更なく退院を行うための要因について調査する。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2022 年 1 月 1 日～2025 年 4 月 31 日の間に庄原赤十字病院に誤嚥性肺炎（疑い含む）治療目的で入院した患者

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2027 年 3 月 31 日

3) 研究方法

入院前の食形態が普通食の誤嚥性肺炎入院患者において、普通食を継続できる要因の究明と普通食を継続する利点、意義について診療情報を用いて調査研究を実施します。

4) 使用する情報の種類

入院時；性別、年齢、診療科、身長、体重、BMI、浮腫、血清データ（Alb、Hb、TLC、CRP）、MNA-SF、GLIM 基準、下腿周囲長、入院前食形態、入院前 FILS、入院前居住、要介護度、市中肺炎重症度分類（A-drop）、自己排痰の有無

入院時 7 日目；提供食事内容、摂取栄養量、Barthel index（BI）、FILS

退院時；BMI、提供食事内容、摂取栄養量、FILS、BI、経口摂取開始までの日数、抗菌薬投与期間、Charlson comorbidity index (CCI)、入院期間、退院先、居宅変更の有無、ST 介入の有無、ST 関与開始までの日数

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文の発表から 5 年間、庄原赤十字病院栄養課内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、年の年度末(3月 31 日)までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。研究の成果は、あなたの氏名等の個人情報が明らかにならないようにしたうえで、学会発表や学術雑誌等で公表します。なお、研究データを統計データとしてまとめたものについては お問合せがあれば開示いたしますので、下記までご連絡ください。

（問い合わせ・連絡先）

庄原赤十字病院 栄養課 管理栄養士 氏名 重政 光彰

TEL 0824-72-3111 FAX 0824-72-3285

E-mail: eiyoka@shobara.jrc.or.jp

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受け入れ及び使用はありません。